

リンドウの半促成栽培において 早朝ハウス開放は過剰な節間伸長を抑制する

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

部門名 花き－リンドウ－生理・生態、生育調節

担当者 矢島 豊・宗方宏之・山口繁雄

I 新技術の解説

1 要旨

リンドウの無加温半促成栽培は、栽培条件によって花段部の節間が過剰に伸長し、間延び感により外観品質が低下する場合がある。そこで、節間伸長に影響を与える要因を調査し、過剰な伸長を軽減する管理方法を明らかにした。

- (1) 早朝からのハウス内気温の上昇の抑制は節間伸長を抑制することが明らかとなった(表1、写真1)。日の出時刻から10時頃までの時間帯にパイプハウスを開放し、内気温を低く管理することで過剰な節間伸長を軽減できる(図1)。
- (2) 花段部の節間は、出蕾後の約3週間に活発に伸長することが確認されたため(図2)、出蕾期以降に早朝のハウス開放を実施する。

2 期待される効果

- (1) 花段部の過剰な節間伸長が抑制され、品質の等級落ちの減少が期待される。

3 適用範囲

パイプハウスを用いたリンドウの無加温半促成栽培を行う生産者

4 普及上の留意点

- (1) 「ふくしまさやか」を供試した試験結果であるが、他品種にも応用可能と考えられる。
- (2) 昼間の高温遭遇は節間伸長と開花遅延を助長するため、換気作業に注意してハウス内が高温にならないように注意する。
- (3) 開花前の遮光処理は、早朝ハウス開放による節間伸長の抑制効果を低下させる可能性があるため、開花が始まるまで遮光資材の展張は控える。

II 具体的データ等

表1 早朝ハウス開放による花段部節間長の短縮効果

試験年次	試験区 ¹⁾	節間長(cm)				
		最上位	第2	第3	第4	第5
2008年	早朝ハウス開放	4.0 a	7.0 a	9.1 a	9.8 a	9.1 a
	慣行管理	4.2 a	6.9 a	9.2 a	9.5 a	8.6 a
2009年	早朝ハウス開放	3.3 a	5.5 a	7.6 a	8.6 a	8.8 a
	慣行管理	3.9 c	6.6 b	8.5 b	9.4 b	9.6 b
2010年	早朝ハウス開放	3.6 a	6.2 b	7.6 ab	8.1 a	7.9 ab
	早朝ハウス開放+遮光なし	3.2 a	5.5 a	7.1 a	7.9 a	7.6 a
	高温管理	4.5 b	7.4 c	9.2 c	9.6 c	9.1 b
	慣行管理	4.3 b	6.4 b	8.0 b	8.6 b	8.2 b

※Tukeyの多重比較法により、同符号間に5%水準で有意差なし。

1)早朝ハウス開放+遮光なし区(2010年)を除き、出蓄期以降に40%遮光を実施。

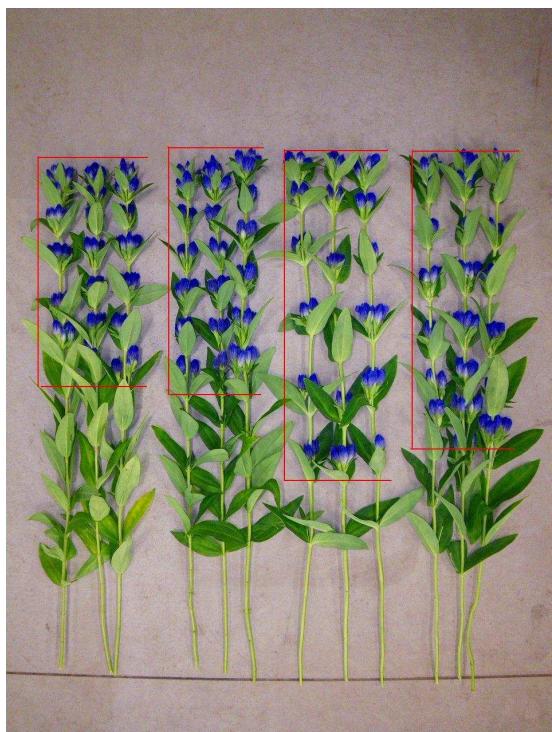


写真1 「ふくしまさやか」の切り花

(2010年、左から早朝ハウス開放+遮光なし区、早朝ハウス開放区、高温管理区、慣行管理区)

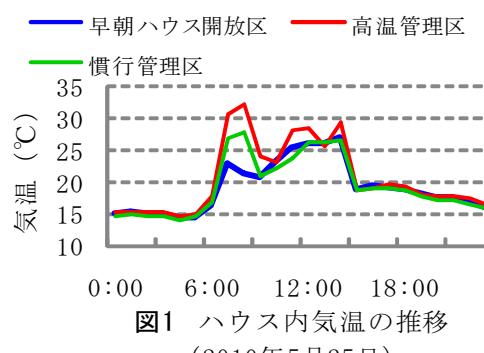


図1 ハウス内気温の推移
(2010年5月25日)



図2 草丈の推移 (2010年)

III その他

1 執筆者

矢島 豊

2 研究課題名

リンドウの品質向上技術の確立

3 主な参考文献・資料

(1) 平成20年度～22年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008～2010)